

事業計画書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進などの事業を行う。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査の実施。財団が管理する森林に関わる阿寒川水系上流域における2河川（キネタンベツ川、チクショベツ川）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査、水の量・質などの現状把握を行い、流域森林の状況と河川との関わりを引続き調査する。

事業費

650,000円（前年度予算 650,000円）

(2) 人材育成事業

1) 一步園自然セミナー開催事業

阿寒をはじめとする北海道内の野生動植物や自然現象、自然との関わりなどをテーマとして釧路市など近隣市町村において自然セミナーを開催し、広く自然に対する意識を深める一助とする。

事業費

440,000円（前年度予算 500,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行う。

事業費

1,000,000円（前年度予算 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

阿寒湖をはじめとする道東地域において児童、生徒を対象とした実体験型自然観察会（ネイチャーウォッチング、自然観察支援事業等）を実施し、自然環境の保全に深い理解と関心を持ち行動ができる人材の育成に寄与する。

事業費

785,000円（前年度予算 890,000円）

2) 自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動並びに調査研究、及びその普及啓発用報告書または成果品の刊行に対し助成を行うとともに、平成25年度の助成対象者により実施された事業についての報告会を（公財）秋山記念生命科学振興財団と合同で実施する。

事業費

6,186,000円（前年度予算 6,256,000円）

3) 森林利活用推進事業

これまでも地域住民や阿寒湖を訪れる多くの観光客に森林との触れ合いを深めてもらうための取り組みを進めてきたが、財団創立30周年を契機に取り組む「森の学校事業」を本格的にスタートさせる。森の学校事業は、①「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）、②「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）、③「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）の3事業から構成される事業である。本年度は、森の学校事業として次の内容を計画する。

- ・今後の阿寒湖畔の森林を教育やレクリエーションに活用するための調査
- ・釧路市教育委員会への研修事業提供
- ・地元教育機関（阿寒湖小学校）向け研修の実施

- ・地元児童向け研修事業の実施
- ・「一步園森の案内人」（ガイド）の養成
- ・「研究の森」事業の周知活動と需要調査等

また、事業を円滑に実施するために有識者から構成される推進委員会を立ち上げ、事業の進め方や、実施結果の振り返り、次年度に向けた事業内容の見直し等を行う。

事業費 4,300,000円（前年度予算 230,000円）

（４）顕彰事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体、個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞（200,000円／件×2件）を贈呈する。また、未来の自然環境を担う子供たち（小中学生）の自然環境の保全活動の取組みの励みとするため、一步園ジュニア自然環境賞（100,000円／件×2件）を贈呈するとともに、今年度より団体の活動促進に資するため奨励賞（30,000円×5件）を贈呈する。

事業費 2,220,000円（前年度予算 2,080,000円）

（５）地域保全事業

1）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具などに対して助成を行う。

事業費 300,000円（前年度予算 300,000円）

2) エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔地区におけるエコミュージアムセンターの活動に対して助成を行い、地域環境の保全に資する。

事業費 800,000円（前年度予算 800,000円）

(6) 前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行う。

事業費 900,000円（前年度予算 1,200,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、平成26年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良等に取り組む。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止及び自然保護思想の普及等を図るため、林内の巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を行う。

事業費 2,450,000円（前年度予算 2,373,000円）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると平成24年度のエゾシカによる農林業被害額は69億8,700万円（前年度比2億3,50

0万円減)と深刻な状況が続いている。このような中であって、当管理山林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲により樹皮喰等の被害を抑制することに成功している。

道東部地域(釧路総合振興局等)において個体数は減少していると言われているが、まだ高い水準にあり、当管理山林も依然として全域において危険にさらされている状況である。しかしながら近年の捕獲数は減少傾向にあり、この10年におよぶ囲いワナによる生体捕獲が一定の成果をあげていると考察する。

このため、平成26年度も、前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった森林被害防止対策を継続して実施するが、囲いワナによる捕獲について設置ワナ数を1基減らし、3基の囲いワナの設置を計画する。また、これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査をすすめていく。

事業費 10,060,000円(前年度予算 11,000,000円)

3) 林道事業

既設の林道・作業道およびゲート等の関連設備の補修・改良を行う。

事業費 1,000,000円(前年度予算 1,000,000円)

4) 調査事業

人工林保育・天然生林改良の計画立案に必要な林況を把握するための調査を行う。平成26年度より新たに3年間の調査期間を計画し、これまで45年間かけて植栽を行った人工林(1,181ha)について資源量の調査を行い、今後の人工林保育の計画立案に必要な情報を収集する。また調査に必要な機器等を購入する。

事業費 1,870,000円(前年度予算 1,800,000円)

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を行う。

事業費 500,000円（前年度予算 500,000円）

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を行う。

事業費 400,000円（前年度予算 393,000円）

2) 人工造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成22年～23年の植栽地2.5haの下刈作業を行う。

事業費 130,000円（前年度予算 207,000円）

3) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林6.5haの除間伐、1.4haの枝打ち、および伐採木（260m³）の搬出、ならびに新規作業道（1,000m）の開設を行う。

事業費 18,590,000円（前年度予算 16,466,000円）

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然林の林分構成の充実を図るため、天然林の樹下10haにクロエゾマツの苗木（10,000本）を植栽する。

事業費 5,120,000円（前年度予算 8,460,000円）

2) 誘導造林下刈事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、平成21年～25年の植栽地70haの下刈作業を行う。

事業費 2,200,000円 (前年度予算 1,680,000円)

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、148haの整理伐(過熟木、衰弱木、傷害木及びエゾシカによる食害木を対象)、および伐採木(1,520m³)の搬出ならびに既存作業道の補修(2,800m)及び新規作業道(6,400m)の開設を行う。

事業費 38,230,000円 (前年度予算35,427,000円)

(4) 業務費

山林事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」。

事業費 1,220,000円 (前年度予算 1,350,000円)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行う。

(1) 土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化事業やゲート及び看板などの設置を行う。

事業費 350,000円（前年度予算 3,100,000円）

(2) 土地貸付

前年度に引き続き、表3-1のとおり土地の貸付を行う。

(表3-1) 土地貸付等状況一覧

契約区分	平成25年3月現在		平成26年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	209件	520,020㎡	210件	520,338㎡	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	19件	346,115㎡	19件	346,115㎡	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	228件	866,135㎡	229件	866,453㎡	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進と、温泉需要者との情報交換を行う事業等を本年度も継続して行う。

(1) 前田一步園財団温泉推進連絡会議

温泉事業をより一層円滑に推進するため、地域の関係者や温泉利用者と情報交換を行う場を設ける。

事業費 30,000円（前年度予算 30,000円）

(2) 温泉供給施設の整備

1) 揚湯ポンプの拡充事業

各源泉に共通する予備の温泉ポンプ（7.5kw×2台）及び温泉揚湯管（4m／本）×8本を購入し、温泉の安定供給の確保に努める。

事業費 3,300,000円（前年度予算 900,000円）

2) 温泉計量器の交換整備事業

温泉計量器（流量計）を交換整備し、温泉供給量を把握することにより、温泉の安定供給と資源の節約に努める。

事業費 1,080,000円（前年度予算 750,000円）

3) 源泉ピット（井戸元）整備事業

掘削時施工したピット（コンクリート升）等が経年劣化により、破損等が見られるため各源泉ピットの整備を行い、源泉の保護に努める。

事業費 600,000円（前年度予算 0円）

(3) 源泉及び温泉供給設備の管理

平成26年1月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく15本（内、稼働中12本、非常時用予備1本、観測井2本）である。前年度に引き続き、平成26年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

(4) 温泉供給

前年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行う。

(表4-1) 温泉供給状況一覧

供給区分	平成25年3月現在		平成26年1月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	67件	312本	67件	312本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	70件	319本	70件	319本	

5. その他

(1) ホームページ新規作成事業

平成13年度に職員が作成したホームページは、その後の情報（ファイル）量の増加等によって管理が複雑化した事から、閲覧しやすく且つ管理のしやすいホームページにするため専門業者に依頼しリニューアルを行う。

事業費 500,000円（前年度予算 0円）

事業費については、実施事業等会計、その他会計、法人会計で配分し支出する。

(2) 創立30周年記念事業報告書作成事業

創立30周年記念事業として実施した「一步園のこれからを語る夕べ」、記念講演会「森と生活」、「スウェーデンから学ぶアウトドア環境教育」の内容をまとめた報告書を作成する。

事業費 250,000円（前年度予算 0円）

事業費については、法人会計にて支出する。